

学校図書館を考える・シリーズその9

## 栃子会員と学校図書館

——アンケートから——



「学校図書館を考える」プロジェクトが活動を始めて今年度で十年になります。その間、学校図書館に関するさまざまなリーフレットの発行や学習交流会を通して活動してきました。しかし学校図書館についての関心や活動は、なかなか広まらずいつも苦慮してきました。

そこで、十年目の今回「栃子会員が学校図書館のことをどのように意識しているのか」その意識調査をしました。アンケートの結果から見ても明らかのように、ほとんどの会員は、「おはなしや読み聞かせ」のために学校に向かっています。そうした活動と学校図書館への関心がなぜ結びつかないのか？

会員がアンケートを書き、その結果を見ることによって、改めて学校図書館のことを考え、関心を深めるきっかけのひとつになればと思います。

以下その結果です。

アンケート回収 55団体・個人(169通) 回収率 54%  
アンケート結果

全小・中学校に専任・専門の司書のいる宇都宮市と、司書がいない・いたとしても事務職と兼務や、市町の何校かに司書が入っているといった宇都宮市以外の市町では条件が違いすぎるので、結果は「宇都宮市」「宇都宮市以外」の2通りに分けてみました。

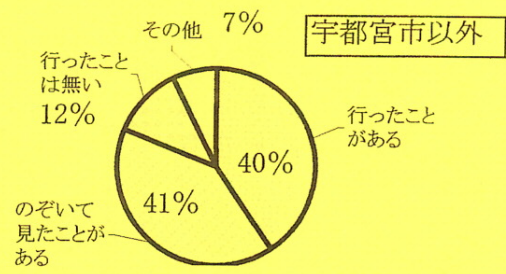
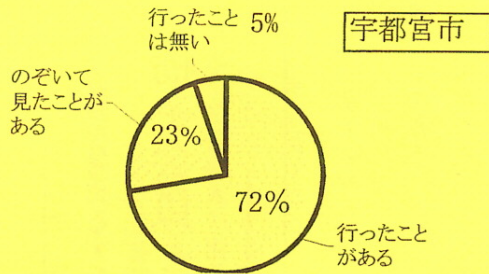
### アンケートの内容

「私たちと学校図書館」H22・9月実施

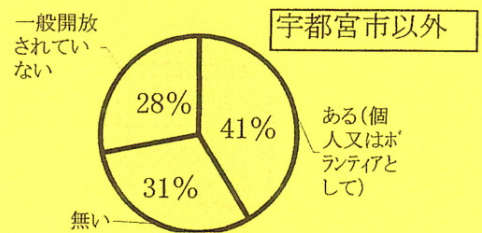
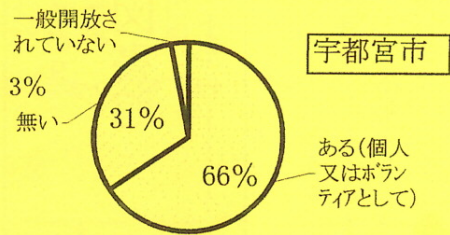
設問No	設問内容	設問No	設問内容	設問No	設問内容			
1	学校図書館に行ったことはありますか	4-II	読み聞かせやおはなしの方へ	4-V	ボランティアを行っている学校について			
	a 行ったことがある		①		利用する本はどこの本ですか	①	全学年で何学級ですか	
	b のぞいて見たことがある				a 学校図書館		②	司書教諭はいますか
	C 行ったことは無い				b 公共図書館			a いる
d その他	C 自分の	b いない						
2	学校図書館を利用した事がありますか	②	d その他	③	C 分からない			
	a ある(個人又はボランティアとして)		読み聞かせの後、本は		③	学校司書はいますか		
	b 無い		a 貸し出し・置いてくる		a 専任の学校司書又は担当職員			
	C 一般開放されていない		b 本の所在場所を知らせる		b 専任ではないが担当職員			
3	子どもの本関係のボランティアの活動場所	③	C そのまま持ち帰る	4-VI	C いない			
	a 地域(図書館、公民館)		d その他		d 分からない			
	b 学校(幼稚園、保育園、小、中、高)		③		学校側のボランティア窓口	4-VI	学校司書が必要と感じた事	
	C その他		a 校長、教頭等の管理職者		a ある			
4-I	ボランティアの内容	4-III	b 教諭(司書、図書担当)	4-VII	b ない			
	a 読み聞かせやおはなし		C 学校司書、図書担当事務職員		4-VII	どのような時に感じたか		
	b 本の修理や図書整理		d その他		4-VIII	学校と学校図書館についての話し合い		
	C その他		4-III			頻度(活動場所別に)	a 持ったことがある	
4-IV	ボランティアをやる場所	a 教室	b 持ったことが無い					
	a 教室	b 図書館						
	b 図書館	C その他						



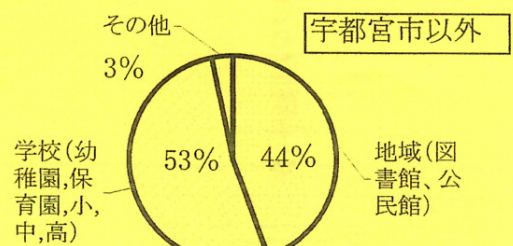
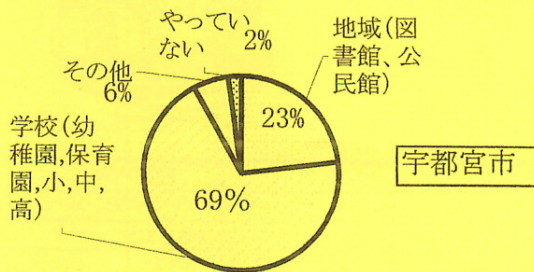
設問No 1 学校図書館に行ったことはありますか



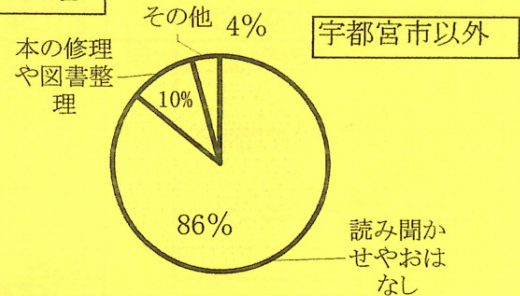
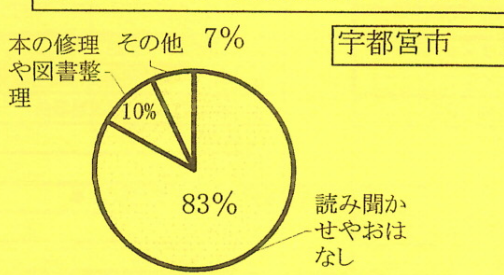
設問No 2 学校図書館を利用した事がありますか



設問No 3(複数回答) 子どもの本関係のボランティアの活動場所

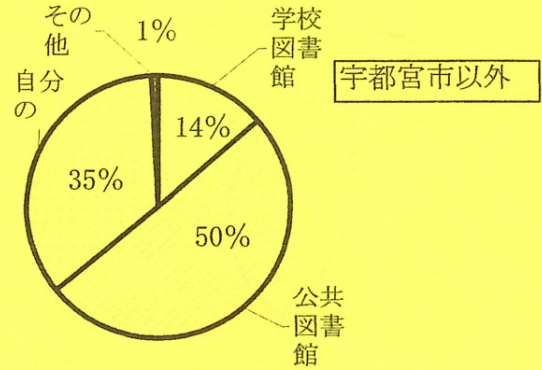
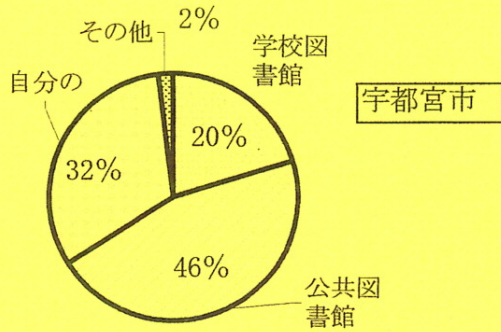


設問No 4-I (複数回答) ボランティアの内容

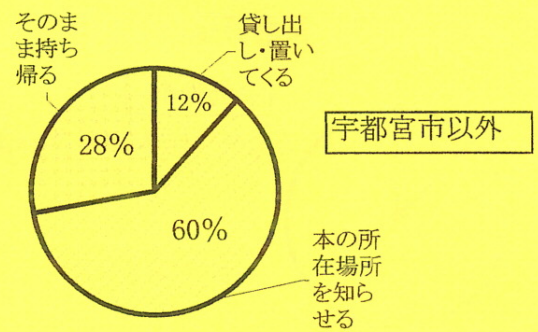
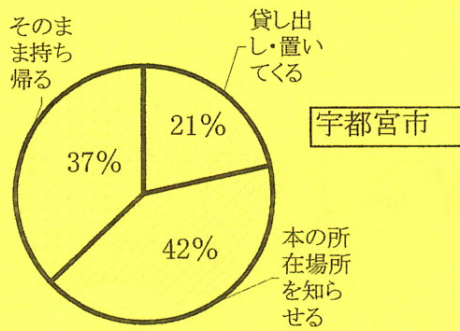


学校司書が小中学校全校に配置されている宇都宮市と、それ以外の市町とでは、学校図書館を身近に感じるあり方に、大きな差がある。学校図書館に行ったり利用したりする割合が、宇都宮市では高いのに対し、その他の市町では低くなっている。活動場所としては、共に地域と学校が殆どを占めるが、宇都宮市の方が学校の割合が高い。活動内容としては、共に読み聞かせやおはなしが多い。

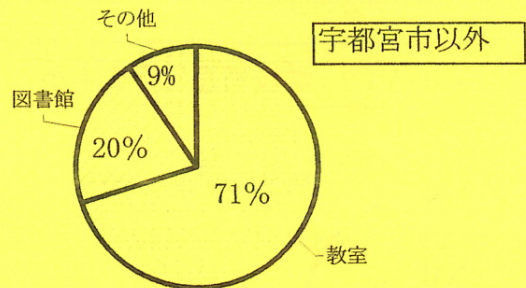
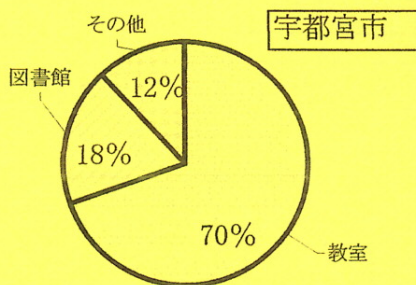
設問No 4-II①(複数回答) 利用する本はどこの本ですか



設問No 4-II② 読み聞かせの後、本は

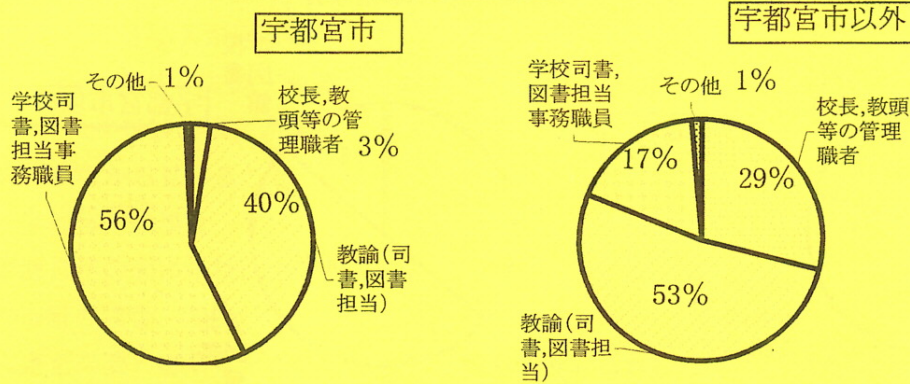


設問No 4-IV ボランティアをやる場所



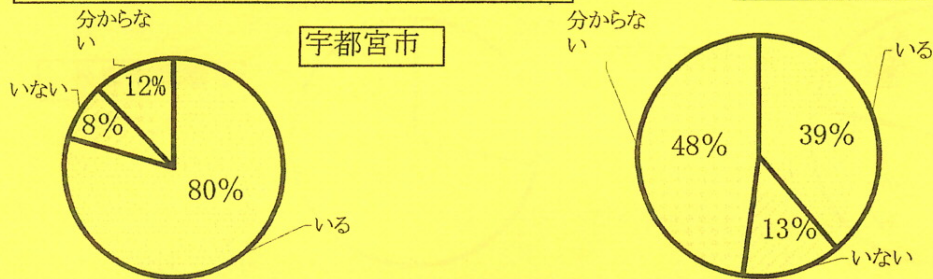
上記の3つの設問に関して、地域差は少ない。しかし、読み聞かせの後、本を置いてくる割合は宇都宮市の数値が高い。学校図書館の本を利用している割合とはほぼ同じとなっている。宇都宮市は、学校図書館に司書がいることで利用しやすくなっていると思われる。読んだ本をそのまま子どもたちに手渡せる工夫が必要ではないだろうか。

設問No 4-II③ 学校側のボランティア窓口



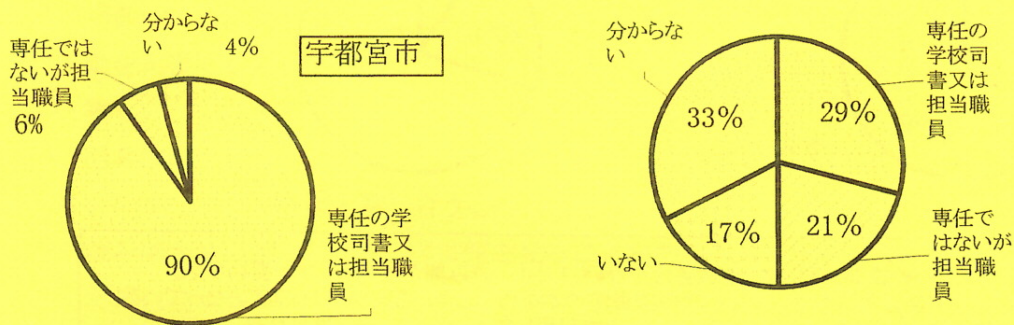
宇都宮市では司書教諭(12学級以上)・学校司書が配置されているため、ボランティアの窓口にもなっている。しかし、それ以外の地域では、管理職に頼る割合が多い。

設問No 4-V② 司書教諭はいますか



学校図書館法に基づき、平成15年度以降12学級以上の学校には、司書教諭の配置が義務付けられている。今回のアンケートで、宇都宮市以外では、司書教諭の存在自体を「分らない」とした回答が多かった。宇都宮市では、司書教諭と学校司書との職務分担が明確化されているため、司書教諭の存在が認識されていると思われる。

設問No 4-V③ 学校司書はいますか



宇都宮市以外での「分らない」とした回答(33%)は残念であるものの、専任の学校司書または担当職員がいない現状では仕方のない事かもしれない。しかし、ボランティアとして子どもたちに一番近い読書環境を担う学校司書の存在を、もっと身近に感じて欲しい。

設問No. 4-VI 学校司書が必要と感じた事ありますか？

	必要と感じた	感じない
宇都宮市	95%	5%
宇都宮市以外	69%	31%

宇都宮市の場合95%の方が必要と感じています。4-VIIの設問「どのような時感じたか」の項と合わせて見てみます。

司書がいてよかった面の意見

<児童・生徒にとって>

- ・ 授業の間に子どもたちが図書室を利用するにも対応する人が居ると居ないでは差がある。子どもたちの要望を聞いて一緒に本を選んだりアドバイスしている姿を見て、存在の必要性を感じる。
- ・ たとえ本を借りていなくても、その場で本を見たり、司書の先生との交流などもあり、子ども達にとって潤いのある場所になり大切な空間になっているように感じた。そういう場所を作るには司書という役割がとても大切だし必要だと思った。
- ・ 図書室の使い方、本の紹介、選び方など常日頃子どもと接している人が必要。図書室や学級文庫に良い本が揃っていることは大切。それを選び発注管理するため司書は必要。

<ボランティアにとって>

- ・ 学校側とのパイプ役。絵本などのアドバイスをもらえる。
- ・ 読み聞かせをする際本の相談にのってくれる。
- ・ 学校とボランティアの連絡がスムーズ。ボランティアが読み聞かせした本や紹介した本を子どもたちに周知してもらえるようになった。
- ・ 読む予定の本が図書室にあるか調べていただいたり、読み聞かせの後に子ども達が声をかけると同一の本、または同じ作者や類似の本を紹介して下さる。

司書がないため、いて欲しいと思った意見

<児童・生徒にとって>

- ・ 子ども達が本に興味を持ったときにすぐ対応できる相談できる司書がいたらもっと本への興味が広がると思う。また、本の整理・選書がその学校にあった、子どもたちに合ったものとしてもらえると思う。
- ・ 子ども達が資料や読みたい本を探している時、子ども達にアドバイスをしてくれる人が欲しい。

<ボランティアにとって>

- ・ 選書の際、相談にのってほしい時。
- ・ 紹介したい本や読んだ本が学校にあるかどうか確認できない。
- ・ 子ども達に今、どんな本が読まれているか知りたい時。



<その他の意見として>

- ・ 時々行くボランティアではなくて、もっと子どもの身近に本を手渡す人、ブックトークできる人が居る事はとても大切。
- ・ 本についての知識・認識が必要。やはりプロが居た方がいい。
- ・ 特に中学校では、司書がいないと図書室を開放するのが難しい。



記述事項から見えること

宇都宮市の場合 学校司書がいて良かった面の記述が大変多く出されました。司書設置5年の間に学校図書館が機能している図書館に変わった成果でしょう。反対に他の市町の場合、学校司書がいなかったため、いて欲しいという意見が大半でした。また学校司書を必要と感じた事がないが、31%もあり、これはひとえに司書の働きの恩恵を受けた事がないので、必要と感じる事もなかった数字と思われます。

設問No 4-VIII. 学校側と学校図書館に関して話し合ったことはありますか？

- ・ 司書の先生を含めて話し合いの場を設けたことはある。
- ・ 読み聞かせのボランティアを始める前に、本来なら学校図書館に司書がいて、子どもたちに本を紹介したりする事は司書の仕事で、ボランティアはあくまでボランティアである、ということを学校側に話しました。
- ・ 毎日、司書さんがいてくれるようにと希望しました。
- ・ 校長先生と話し合い、校長会では「学図への司書の配置を」と要求しているが、予算の関係で無理といわれる。

等の意見がありましたが、全体的には意見の数は少なく(18)、学校側との話し合いはあまり行われてない事がうかがわれます。

設問No 5. 学校図書館が理想的に機能するために、出来ることや考えている事

<栃子会員個人として>

- ・ 司書と一緒に読み聞かせをやろうと誘った。一緒に活動する事でボランティアの活動を司書に知らせ学校の事情、子どもの様子も分かる。そこからこんな本を入れて欲しいという要望につなげられる。
- ・ 図書館の中を知りません。私たちは一方的にお話会をしていますが、このままでいいのかなど、学校側と話し合う必要があると思います。
- ・ 読み聞かせに教室に行き、図書館を見ることがあっても、自分ができることを考えた事はなかった。学校司書の配置を行政に働きかける。
- ・ ボランティアで行く学校図書館を良く知る必要がある。
- ・ 専任の司書の配置を行政に働きかける。働きかけをしている。
- ・ 図書室に関しては物を言える立場ではないと思っていたので、考えた事もなかった。

## < 梶子として >

- ・ 司書（他校）・公立図書館司書・ボランティアとの情報交換（交流）
- ・ ボランティアの情報交換。勉強会を通してのボランティアの意識向上。
- ・ 学校図書館にどんな機能があって、どんな事をしているのかを広める事から始める。
- ・ 学校や司書に梶子の講座の案内をする。（司書の熱意・実力に個人差を感じる）
- ・ 行政への働きかけ。

この設問に関しては、行政への働きかけという、至極最もな回答も当然ありましたが、そこに至る前のさまざまな意見がありました。

「図書館の中を知りません」や、「考えた事もなかった」などの意見もあり、梶子の中でも学校図書館への関心はなかなか浸透していない現実が見えます。

## 最後に ……目が学校図書館に向きましたか？

回答を寄せてくれた方は会員になって数年という方もあれば、長い方もいます。ボランティアに関する考え方も、学校図書館に対する関心も理解も当然さまざまです。今回アンケートをまとめるに当たって、私たちが驚いたのは「司書教諭」「学校司書」の存在が「わからない」との回答の多さでした。

「司書教諭」に関しては、学校司書との仕事分担が鮮明になっている宇都宮市を除いて、校務分掌のひとつとして、担任等を持ちながらの司書教諭では時間的にも困難な状況にあり、それによって外部の私たちには「司書教諭」の存在そのものが見えにくい、という現状が考えられます。

また「学校司書」に関しては、宇都宮市以外の市町では、事務職と兼務であったり、1人が何校も掛け持ちで働いているといった実態もあるので、やはり「学校司書」の存在が見えにくいのかも知れません。

しかしそうした現実はあるにしても、もう一步踏み込んで、自分達が関わっている学校の学校図書館に興味と関心を示して「わからない」という現状が少なくなる事を望みます。

「おはなしや読み聞かせ」など子どもと本との橋渡しのボランティア同様、子ども達の1番身近な読書環境の1つである学校図書館の充実、専任の司書がいて機能している学校図書館、そうした読書環境を整えてやるという事が私たち大人の役割と思います。自分たちの活動と学校図書館の充実、その両方に心を配って子ども達に豊かな読書環境を手渡してやりたいものです。



## 学校図書館と推進計画

学校図書館を考える時、忘れてならないものに「子ども読書推進計画」がある。国の推進計画を受けて県が、県の推進計画を受けて市町が、それぞれの自治体の特性を生かして実態に即した推進計画を立てていくのだが、国・県、共に第二期がスタートしているのに、市町において第二期に入っているのは宇都宮市のみである。第一期すら出来ていない市町もある。

県の推進計画（第二期）は、家庭における推進・地域における推進・学校における推進を三本柱としているが、具体的な数値目標が入っていないために実効性を欠いていると言わざるを得ない。市町では、より具体的な目標を掲げた計画が望まれる。

また、アンケートの結果と下表を見比べると、司書導入と推進計画とに関連があるようにも思われる。

これからも、学校図書館と推進計画と子どもの読書活動を支えるボランティアのあり方について、目を配っていききたいと思う。

### 栃木県

子ども読書活動推進計画策定状況 2010年10月現在

市区町村	回数	子ども読書活動推進計画	策定年月	期間	調査・統計	実践事例
宇都宮市	2次	第2次宇都宮市子ども読書活動推進計画	2009-2	平成21年度～平成25年度	有	
宇都宮市	1次	宇都宮市子ども読書活動推進計画	2004-7	平成16年度～平成20年度		
佐野市	1次	佐野市子ども読書活動推進計画	2008-3	平成20年度～平成24年度		
鹿沼市	1次	鹿沼市子どもの読書活動推進計画	2007-3	平成19年度～平成23年度	有	有
日光市	1次	日光市読書活動推進計画	2008-3			
小山市	1次	小山市子ども読書活動推進計画	2006-3			
矢板市	1次	矢板市子ども読書活動推進計画	2010-3	平成22年度～平成26年度		
那須塩原市	1次	那須塩原市子どもの読書活動推進計画	2009-3	平成21年度～平成25年度	有	
さくら市	1次	さくら市子ども読書活動推進計画	2007-3			
那須烏山市	1次	那須烏山市子ども読書活動推進計画	2008-3			
下野市	1次	下野市子どもの読書活動推進計画	2009-3	平成21年度～平成25年度 までの5年間	有	
南河内町	1次	南河内町子どもの読書活動推進計画	2004-8	平成16年度～平成20年度		
市貝町	1次	市貝町子ども読書活動推進計画	2007-3			
芳賀町	1次	芳賀町子ども読書活動推進計画書	2006-1	平成18年度～平成22年度		
野木町	1次	野木町子ども読書活動推進計画書：ひまわりっ子読書プラン	2008-7	平成20年度～平成24年度	有	
大平町	1次	大平町子どもの読書活動推進計画	2008-3	平成20年度～平成24年度		
高根沢町	1次	高根沢町読書推進運動実施計画	2003-3			
那珂川町	1次	那珂川町子ども読書活動推進計画	2009-2	平成20年度～平成24年度	有	

発行日 平成23年1月

発行者 栃木子どもの本連絡会「学校図書館を考える」プロジェクト

